

次号予告

特集 オプション理論とその周辺

オプション評価の考え方	飯原慶雄 (南山大学)
モンテカルロ法によるオプション価格決定	森平爽一郎 (慶応義塾大学)
ワラント・転換社債評価の考え方	高橋正文 (筑波大学)
リアル・オプション 柔軟性評価への道	大槻聰幸 (国際大学), 竹澤伸哉 (国際大学)
オプション会計と情報開示	阿部正樹 (東京ビーアイリサーチ)
教養講座 多様化時代の数理計画法 第5回 確率計画法 V.S. 可能性計画法	乾口雅弘 (広島大学)

編集後記●以前、こんな話しを聞いた。ある企業でグループウェアの導入を経営陣に提案したら、その1人が「グループウェアとはどんな新しい洋服のことか」と発言したとのこと。もちろん、この発言は冗談か、いつも難解な言葉を使うシステム部門に対する皮肉であろう●今月号の特集は「グループウェア」である。各企業とも先を争うようにホワイトカラーの生産性向上を狙いに電子メール、電子会議室、情報共有などの情報武装化を進めている。今回紹介いただいた論文はどう進めるか悩んでいる人に非常に参考になったと思う●「グループウェア」の仕組み(ソフトウェア)はシステム部門からすると簡単に作れる。大切なのはどう使って、仕事の進め方をどう変えていくのかということである。それにはユーザー側の意識と仕事のスタイルの変革が必須である。例えば、情報共有にしても各部署で共有すべき情報をきちんと定義しないとやみ

くもに情報を登録するだけで終わってしまう●また、「グループウェア」を活用してどれだけ生産性が向上したかを定量的に評価することも大切である。電子メールなどコミュニケーションが便利になったと言われるが果たしてどれだけ効果を生んでいるのかきちんと評価している企業は少ないのではないか●生産性向上には、2つの側面があると筆者は考える。1つは業務処理の効率化・迅速化であり、もう1つは業務の価値・質の向上である。業務の効率化は処理時間や工数などコストで定量化できる。しかし、価値や質を測定する指標は何であろうか。例えば企画業務の質の良否を指標で測定できないだろうか●非定型業務であるが故にホワイトカラーの仕事のスタイルは定義し難い。その困難な領域をモデル化し、変革を与える手法や変革の切り口を発見できる手法が研究されることを願っている昨今である。(外嶋成留)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 逆瀬川浩孝(早稲田大学) 副委員長 山上伸(東京ガス(株)), 山下勝比掬(株東芝), 大山達雄(埼玉大学)
委員 伊藤裕康(株富士通研究所), 上田徹(成蹊大学), 葛山康典(早稲田大学), 國澤直樹(東京電力(株)), 栗田治(慶応義塾大学), 佐賀井重雄(財電力中央研究所), 外嶋成留(住友金属工業(株)), 田口東(中央大学), 田中宏和(さくら総合研究所), 中里宗敬(青山学院大学), 西尾チヅル(筑波大学), 水野眞治(統計数理研究所), 矢島安敏(東京工業大学), 山下英明(駒澤大学)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成8年10月号 第41巻 第10号 通巻430号

代表者 刀根 薫

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 逆瀬川 浩孝

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円, 郵送料含) 年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337), 日経弘報社(3563-2241)へ